

企画展

＼ ベストセラー誕生！ ／

「南総里見八大伝」の世界

会期 2025年9月13日(土)～11月24日(月・振休)



きよくていば きん なんそうさとみ はっけん でん
上 曲亭馬琴『南総里見八大伝』全98巻106冊 館山市立博物館蔵
文化11年(1814)11月に刊行を開始、天保13年(1842)3月完結。足かけ29年
をかけて執筆された。
つきおかよしとし ほろりゆうかくりょうゆうごく たて
左 月岡芳年「芳流閣両雄動」大判錦絵2枚続 明治20年(1887) 個人蔵
むらさめまる こが いぬづかし の
宝刀村雨丸を許我の足利成氏に献上しようとした犬塚信乃(左上)は間者と疑
われ、追われて芳流閣の屋根へ上がる。討ち手として現れた犬飼現八(右下)と
互いが八大士と知らぬままに一騎打ちとなる名場面。

「南総里見八大伝」は19世紀前半、江戸の戯作者曲亭馬琴が執筆した全98
巻106冊に及ぶ長大な読本です。室町時代の房総半島南部に実在した里見
氏の歴史を背景に、「八大士」を中心とした善悪さまざまな人物が関東一円
から越後、甲斐、京にまで舞台を拡げて活躍します。刊行中から評判を呼
び、錦絵、歌舞伎などに取り入れられ、明治以降も幅広いジャンルを刺激
し、今日もなお、新たな作品を生み出している「八大伝」の魅力に迫ります。

そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

企画展

＼ ベストセラー誕生！ ／

「南総里見八犬伝」の世界



1



2



3



4

- 1 曲亭馬琴肖像 個人蔵 筆跡は馬琴の真筆ではなく別の原本の写しと考えられる。
りゆうていせん か せつばいほうたん
- 2 笠亭仙果作 三代目歌川豊国等画「雪梅芳譚 犬の草紙」全56編のうち
弘化5年～明治14年(1848～1881) 個人蔵
読みやすい仮名表記のダイジェスト版として刊行され、八犬伝人気を広げた。
- 3 芥川龍之介「戯作三昧」原稿 当館蔵
「大阪毎日新聞夕刊」大正6年(1917)10月20日～11月4日連載。八犬伝を執筆中の馬琴の胸中を描く。
- 4 辻村ジュサプロー作 NHK「新八犬伝」人形 伏姫 館山市立博物館蔵
「新八犬伝」は昭和48年(1973)4月～昭和50年3月、NHK放送の人形劇(脚本石山透 全464話)。辻村ジュサプロー
(寿三郎)作の人形、坂本九の軽妙な語り口で人気を博した。



いぬやまどうせつただとも
犬山道節忠興



いぬづかし の いぬかわそうすけ
犬塚信乃、犬川莊助たちが
かみつけのくにみようぎ さん
上野国明巍山の茶店で休
んでいたとき、莊助の遠眼
鏡に映った道節。腰の刀袋
むらさめまる
は宝刀村雨丸。

いぬづかし の もりたか
犬塚信乃戌孝



こ が かんれいあしかなりうじ
許我の管領足利成氏に、祖
父から伝わる足利家の宝
刀村雨丸を献上しようとし
るが、敵の間に疑われて
むらさめまる
追われ、芳流閣で犬飼現八
と刃を交える場面。



いぬかいげんばちのぶみち
犬飼現八信道



かみつけのくにこうしんやま
上野国庚申山で馬に乗っ
た異形の妖怪の一行に遭
い、弓で妖怪の左目を射貫
く場面。妖怪は、その後に出
いぬむらだいかく
会う犬村大角の父を襲
った化猫であった。

いぬかわそうすけよしとう
犬川莊助義任



まるづかやま いぬやまどうせつ
武蔵国円塚山で、犬山道節
が綱乾左母二郎を討ち、宝
刀村雨丸を持ち去ろうとし
るところを引き留めて取り
返そうとする場面。



八犬士

二代目歌川国貞「八犬伝 犬の草紙」(嘉永5年(1852) 蔦屋吉蔵刊)より



いぬさか け の たねとも
犬坂毛野胤智



でんがく たいぎゆう
女田楽一座に扮して対牛
楼で舞を披露する場面。そ
の後、父の仇、馬加太記父
子一党を討つ。ここで犬田
小文吾と遭う。

いぬた こぶん ごやすより
犬田小文吾悌順



しもさき ぎょうとく はたご こ
下総国行徳の旅籠屋古那
屋文五兵衛の息子。芳流閣
から落ちて行徳に流れ着
いた犬塚信乃と犬飼現八
の着物を始末して討ち手
から逃がそうとしている。



いぬむらだいかくまさのり
犬村大角礼度



かみつけのくにこうしんやま あかいわいつ
上野国庚申山で、父赤岩一
角を食い殺し一角になりす
ました化猫に虐げられる
が、草庵で一人行いを澄ま
して暮らしている。この後、
いぬかいげんばち
犬飼現八と共に化猫たち
を退治し八犬士に加わる。

いぬ えしん べ えまさし
犬江親兵衛仁



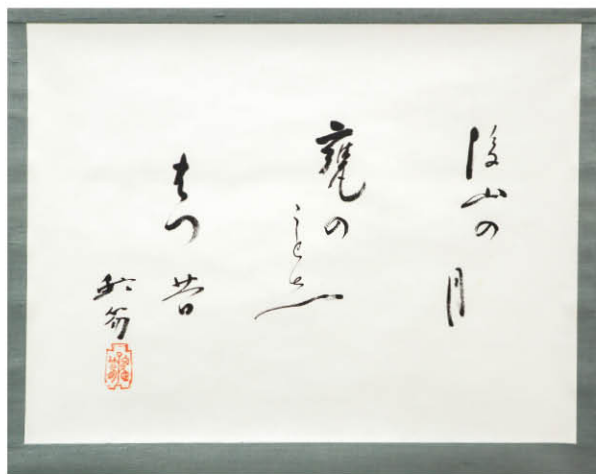
いぬた こぶんご
犬田小文吾の妹の子。幼児
のとき、悪漢に襲われた際、
暴風にさらわれ神隠しに
遭うが、伏姫の霊に庇護さ
れて育つ。館山城を占拠し
た曇田素藤とこれを操る
狸の化身妙椿尼を攻めて
退治する場面か。



新収蔵品展

2026年1月31日(土)～3月22日(日)

2025年に新たに収蔵した樋口一葉、芥川龍之介、飯田蛇笏、村岡花子、山崎方代などの資料を展示します。**観覧無料。**



飯田蛇笏「後山の月薔のごとしはつ昔」軸装 1945年(昭和20)作
『春蘭』所収



芥川龍之介「お律と子等」草稿 寄託資料

常設展

第1室～第4室(展示室A)

樋口一葉、芥川龍之介、飯田蛇笏など山梨県出身・ゆかりの作家を紹介する各コーナーの展示替えとともに、第1室でテーマ展示を次のとおり行います。

秋の常設展「戦後80年 文学者と疎開 金子光晴」

2025年8月26日(火)～11月30日(日)

冬の常設展「秋山秋紅蓼」 しゅうこうりょう

2025年12月2日(火)～2026年3月8日(日)

第5室(展示室B)

山梨県出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期に分けて展示します。

後期：詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

2025年9月30日(火)～2026年3月8日(日)

イベントガイド

企画展「ベストセラー誕生!『南総里見八犬伝』の世界」関連イベント

※講演会は、電話または当館ホームページのイベント欄からお申し込みください。

「講談教室」は9月17日(水)より電話にてお申し込みください。定員になり次第締め切り、キャンセル待ちはありません。

講演会「長編小説家曲亭馬琴」

10月5日(日) 午後1時30分～午後3時

講師: 高橋源一郎 (作家、文芸評論家、明治学院大学名誉教授)

会場: 講堂 定員: 500名 無料



高橋源一郎氏

講演会「『南総里見八犬伝』の構成と趣向」

10月13日(月・祝) 午後1時30分～午後3時

講師: 服部仁^{ひとし} (同朋大学名誉教授、企画展編集委員)

会場: 講堂 定員: 200名 無料



服部仁氏

講演会「江戸時代 甲州の本屋と書籍文化」

10月25日(土) 午後1時30分～午後3時

講師: 鈴木俊幸 (中央大学教授、企画展編集委員、NHK大河ドラマ「べらぼう」
版元考証)

会場: 講堂 定員: 200名 無料



鈴木俊幸氏

ワークショップ「講談教室」

11月1日(土) 午前10時15分～午後0時15分 (午前9時45分受付開始)

講師: 三龍亭千公^{さんりゅうてい せんこう} (伝統話芸集団「南房総三龍亭」代表)

三龍亭夢学^{むがく} (同 副代表)

会場: 研修室 定員: 20名 対象: 小学校3年生以上 テキスト代: 1人600円

その他のイベント

※詳細や申込方法は当館ホームページやチラシで順次発表します。

記載内容に変更がある場合がありますので、ご確認の上、お申し込みください。

三枝浩樹短歌教室

12月13日(土) 午後1時30分～午後3時30分

講師: 三枝浩樹 (歌人)

会場: 研修室 定員: 40名 無料

「声に乗せて味わう児童文学～原きよ朗読教室～」

2026年2月8日(日) 午後1時30分～午後4時 (午後1時受付開始)

会場: 研修室 定員: 20名 対象: 小学校3年生以上 無料

12月23日(火) より電話にて受付を開始します。

定員になり次第締め切り、キャンセル待ちはありません。

*1月13～20日は休館中のためお申込みはできません。

年間文学講座

- *講座1・2ともに午後2時～午後3時30分
- *講座3は午後2時～午後3時10分
- *電話にてお申し込みください。
- *年間を通してのお申込みも可能です。先着順で定員になり次第締め切ります。

講座1 (古典文学) 源氏物語の男たち

講師：池田尚隆（山梨大学名誉教授） 会場：講堂 定員：200名 無料

10月11日（土） 冷泉院

11月22日（土） 光源氏その一

12月6日（土） 光源氏その二

講座2 (近現代文学) 私の出会った作家たち 創作の現場に立ち会う

講師：前田速夫（文芸雑誌「新潮」元編集長） 定員：100名 無料

会場：10月16日は研修室、11月6日・12月18日は講堂

10月16日（木） 吉田知子と村田喜代子 異世界への扉 ―地方作家の底力

11月6日（木） 車谷長吉と平野啓一郎
作家デビューまで ―無名の新人の担当編集者として並走して

12月18日（木） 津島佑子と小川洋子 世界に通じる普遍性 ―国内外で高まる評価

講座3 作家と作品

会場：研修室 定員：70名 無料

9月14日（日） 高室有子（当館学芸員） 「南総里見八犬伝」展示の見どころ

名作映画鑑賞会

9月27日（土）「ビルマのたてごと竝琴」 原作：竹山道雄 監督：市川崑
出演：三國連太郎、安井昌二 他 モノクロ 116分（申込開始日 8月5日）

2026年2月21日（土）「破戒」はかい 原作：島崎藤村 監督：前田和男
出演：間宮祥太朗、石井杏奈、矢本悠馬 他 カラー 119分（申込開始日 2026年1月6日）

- *2回とも上映は午後1時30分から。 会場：講堂 定員：300名 無料
- *電話または当館ホームページの「イベント」欄の申込フォームからお申し込みください。
- 先着順で定員になり次第締め切ります。
- *1月13～20日は休館中のためお申込みはできません。

閲覧室

入場
無料

資料紹介

定期的にテーマを設け、所蔵している図書、雑誌を紹介しています。

資料は、直接手にとってご覧いただけます。



閲覧室資料紹介

「どうぶつとぶんがく」

「没後50年 檀一雄の世界」

9月12日(金)～11月24日(月・振休)

2026年 1月 2日(金)～ 3月22日(日)

昭和100年記念資料紹介

「芥川賞・直木賞でふり返る昭和の文学」

「雑誌に見る昭和の文学」

11月27日(木)～12月25日(木)

2026年 3月25日(水)～ 4月22日(水)

閲覧室トーク

閲覧室の利用方法や、書庫で保存している貴重な図書・雑誌についてご案内します。

11月20日(木・県民の日) 午後1時30分～午後2時 先着10名 無料

*事前に電話または閲覧室カウンターでお申し込みください。

寄贈資料より

(2025年2月～7月)

- 古谷晶子氏より高安月郊著「命の花園」原稿など特殊資料27点、図書6点。
- 安藤武氏より辻邦生著「西欧の光の下」切り抜きなど特殊資料33点、図書3点。
- 玉手洋一氏より「2025CALENDAR 小説「津軽」の旅」など特殊資料3点、雑誌2点。
- 清水一正氏より山崎方代著「愛の序章」原稿など特殊資料13点。
- 志村雄一氏より飯田蛇笏著「謨」原稿1点。
- 米倉伸哉氏より米倉伸哉著「〈呼びかけ〉の思想—李良枝文学を読む」コピー1点。
- 秋元千恵子氏より秋元千恵子他写真1点、図書1点、雑誌1点。
- 長谷川敦史氏より長谷川敦史著「第二次『早稲田文学』編集体制の変遷」抜き刷り1点。

次の皆様からも図書・雑誌をご寄贈いただきました。(敬称略)

雨宮慶子	有田和臣	飯島泉	今村高治	大橋毅彦	乙黒宏	勝島靖夫	金田祥子
川崎雅子	北川光彦	窪田節子	五味正弘	佐野舞奈	澤西祐典	進藤通子	高野純子
田沼利規	土屋百恵	土岐恭子	中村吾郎	西田耕三	早澤正人	藤田博	三島利徳
吉川豊子	吉田昌志	吉村登	渡邊勤				

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後7時 (土・日・祝は午後6時まで)
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分

*営業時間は変更になる場合があります。

休館日(10～3月)

10月	6・14・20・27日
11月	4・10・17・25日
12月	1・8・15・22・27・28・29・30・31日
1月	1・5・13・14・15・16・17・18・19・20・26日
2月	2・9・12・16・24日
3月	2・9・16・23・30日

*1月13日(火)～20日(火)まで館内整備のため休館

展示室観覧料

*11月20日(木)県民の日はどこでも無料。

	常設展(特設展)		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*団体料金は20名以上の団体、県内宿泊者割引料金。

*大学生は学生証を提示。

*次の方は無料

- ・高校生以下の児童・生徒(高校生は学生証を提示)
- ・65歳以上(年齢が分かるものを提示、県外在住者は常設展のみ)
- ・障害者とその介護者(障害者手帳を提示)

施設利用のお申込みについて

- 講堂・研修室・茶室のお申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の午前9時より受け付けます。文学館チケット売場まで申請者の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。
受付時間は午前9時～午後4時30分です。
- 電話での仮予約が可能です。本申請前にぜひご活用ください。(055-235-8080)
仮予約の受付時間は午前10時～午後4時30分です。
- いずれも休館日は受け付けません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。

交通のご案内

中央自動車道

- 甲府昭和インターチェンジより約10分
- 双葉スマートインターチェンジより約10分 ※ETC専用

中部横断自動車道

- 白根インターチェンジより約20分

JR中央本線甲府駅より

- JR甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より、39系統 御勅使・03・04系統 竜王駅経由敷島営業所、35系統 大草 経由葦崎駅、30系統 貢川団地各行ききのバスで約15分、「山梨県立美術館」下車。
※山梨県立文学館ホームページからも、バスの時刻表をご覧ください。
- タクシーで約15分。



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL: 055-235-8080 FAX: 055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

ホームページ

